

✦ 回りて向かう ～仏壇について その二～

今回は、各ご家庭において御仏壇とどのように向き合えばよいのかについて、順を追って説明したいと思います。ここでご紹介するのはあくまでも一つの例です。もしご家庭で独自の伝統をお持ちの場合は、そちらを優先された上で参考にさせていただけたらと思います。

1. まずは日常に使用していただきたい佛具についてです。これらは香炉・灯明・花瓶の3つで三具足と呼ばれ、ほとんどの宗派で右図のように並べられます。また灯明と花瓶が一つずつ増えた形式を五具足と呼び、こちらも一般的な並べ方です。

線香の本数は何本でも良いです。お花の種類は基本バラなどトゲのあるものは避けませんが、故人様が特別好きだった場合は別の花瓶で添加するお供えとしてなら良いでしょう。

また基本的に、毎朝のお供えはお水で結構ですが、一番炊きの御飯やお茶を供えられるのは尚更素晴らしいです。

2. 次に三礼となります。これは動作こそ3回繰り返す礼ですが、仏・法・僧の三宝それぞれに対して心から敬礼することです。ちなみに僧とは僧侶だけではなく、御仏壇に向かい手を掌す皆さん自身をも含みます。我々の宗派では『一心頂礼本尊諸尊一切三宝』と言いながら礼します。

イツシンチョウライホンソンシヨソインイッサイサンボウ

3. いよいよお参りの本分となる読経ですが、なにも読経に限らず短い御真言を3回唱えるとか、或いはじっくり腰を据えて念仏を100回唱えるなどでも構いません。

主な御真言には不動明王の『ナマクサマンダ バサラダン カン』があり、念仏では阿弥陀如来の『南無阿弥陀仏』があります。

もし「御真言や念仏を唱えてもどうもしっくりこない・・・」という人には、ご家族ご友人の笑顔を手鏡としてイメージすることをお勧めします。

4. 読経が終わると、次に祈願あるいは回向を行います。どちらも同じような意味合いですが、祈願は直線的で、回向は間接的なイメージを含んでいます。

「生きている人も既に亡くなっている人も、その在り方においてより良いものとなってほしい・・・またそうなるように精進していきます！」という願いや決意を毎日紡いでゆくのです。

5. 最後にはまた三礼をします。実は始まりも終わりも本来は五体投地礼拝が理想です。頭の前に差し出した両掌の上に仏様の御足を頂くイメージで行います。そして自分の身体を泥の水溜りに架ける橋のようにして、その上を歩いていただくのだという謙虚な気持ちで自らの驕りを捨てるのです。しかしご家庭での場合はできる範囲で、身体に無理をせず、あくまでも先に説明したイメージを抱いて行ってください。

全て終わると忘れてはならないのが火のもとです。灯明台に合わない長さのローソクを使うことは控え、くれぐれも消火を確認しましょう。

以上が仏壇に向かう時の基本的な流れとなりますが、近頃世間では、御仏壇を自由な暮らしを阻む足枷のように捉える向きがあります。古い御仏壇は場所を取るから邪魔になるなんて思われる方も決して少なくないと思います。

でも、その御仏壇が初めてお家に来た時のことを想像してみてください。それはまだ皆さんがお生まれになっていない遙か昔のことかもしれません。今はもう位牌で祀られている御先祖様たちが、一心に胸に描いていた明るい未来に、皆さんは今生きているのです・・・。

※経典をお求めの方はお気軽に護国寺までお電話ください。



1

1回の動作は立った状態から



(身体が出来る範囲で)

両手の指は少し上げます

3



4



5

